NEWS　RELEASE
SHOKO CHUKIN BANK

商工中金

2026 年 11 月 9 日
商　工　中　金

排出量の算定から設備投資まで、中小・中堅企業の脱炭素を一貫支援 「CN（カーボンニュートラル）ファイナンス」を創設

株式会社商工組合中央金庫（本社：東京都中央区、代表取締役社長：関根 正裕、以下「商工中金」）は、中小・中堅企業の脱炭素経営を金融・非金融の両面から支援する**「CN（カーボンニュートラル）ファイナンス」**を創設しました。

本商品は、温室効果ガス排出量の算定に未着手の企業も対象に、排出量の可視化から削減目標・計画の策定、設備投資などの削減施策の実行までを一貫して支援する伴走支援型融資です。各 KPI の達成に応じて融資利率を優遇し、全ての対象 KPI を達成した場合は最大 0.5%引き下げます。

1. 取扱開始の背景

上場企業を中心に、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を把握・削減する動きが進み、取引先である中小・中堅企業にも、排出量の算定や削減目標の設定を求める動きが広がっています。経済産業省によると、取引先から排出量計測やカーボンニュートラルへの協力を求められた中小企業の割合は、2023 年の 8.5%から 2024 年には 12.0%に上昇しました。また、中小企業等による温室効果ガス排出量は、日本全体の約 1～3 割に相当すると推計されています。

一方、中小・中堅企業では、脱炭素に関する専門人材やノウハウ、取組みに必要な資金の不足などが課題となっています。商工中金は、こうした企業による脱炭素を後押しするため、温室効果ガス排出量の把握から、削減目標・計画の策定、削減施策の実行までを金融・非金融の両面から支援する「CN ファイナンス」を創設しました。

2. CN ファイナンスの特徴

本商品は、お客さまの事業活動が環境・社会・経済の特定のテーマに与えるインパクトを評価し、KPI の達成に向けて継続的に支援する「インパクトファイナンス」のうち、気候変動の分野に焦点を当てた商品です。

お客さまの取組状況に応じて KPI を設定し、資金提供に加え、各種ソリューションの提供や融資実行後のモニタリングを通じて、脱炭素に向けた取組みを継続的に支援します。

【主な特徴】

① 排出量の算定から削減施策の実行まで一貫して支援
温室効果ガス排出量をまだ算定していない企業も対象に、排出量の把握、削減目標・計画の策定、設備投資などの削減施策の実行までを段階的に支援します。

② 企業の取組状況に応じた KPI を設定
Scope1・2 排出量の把握、SBT 認定の取得または SBT に準じる削減計画の策定を基本とし、必要に応じて MAC カーブの作成、カーボンフットプリントの算定、Scope3 排出量の算定などを KPI に設定します。

③ KPI の達成に応じて最大 0.5%の金利優遇
各 KPI に金利優遇幅を設定し、全ての対象 KPI を達成した場合、融資利率を最大 0.5%引き下げます。また、融資実行後も原則年 1 回、KPI の進捗状況を確認し、削減計画の策定や削減施策の実行を継続的に支援します。

3. 三菱重工との連携

任意 KPI の一つである MAC カーブの作成では、2026 年 3 月に中小企業の脱炭素推進に向けた支援の枠組みを構築した三菱重工業株式会社（以下「三菱重工」）と連携します。

MAC カーブとは、設備更新や運用改善などの削減施策ごとに、CO2 削減効果と実施コストを整理し、施策の優先順位を可視化するものです。三菱重工が自社工場の脱炭素化を通じて培った省エネルギー技術等のノウハウと、商工中金の中小・中堅企業支援の知見を組み合わせ、経済合理性と排出削減効果の両面を踏まえた計画策定を支援します。

4. 主な商品概要

対象	脱炭素経営に取組む中小・中堅企業
主な対象業種	製造業、物流・運送業など
資金使途	運転資金・設備資金
融資金額	原則 5,000 万円以上
必須 KPI	Scope1・2 排出量の把握、SBT 認定の取得または SBT に準じる削減計画の策定
任意 KPI	MAC カーブの作成、カーボンフットプリントの算定、Scope3 排出量の算定など
金利優遇	各 KPI に金利優遇幅を設定し、全ての対象 KPI を達成した場合、最大 0.5%引き下げ
モニタリング	原則年 1 回、KPI の進捗状況を確認
伴走支援	KPI の達成や脱炭素施策の実行に向け、各種ソリューションを提供

注）KPI の設定、金利優遇その他の適用条件は、個別の融資契約により定めます。

商工中金は、CN ファイナンスを通じて、中小・中堅企業による温室効果ガス排出量の把握、削減計画の策定、設備投資などを一体的に支援し、脱炭素と企業成長の両立に貢献してまいります。

